

# おもしろ図書館

## No.154

発行 青木和子  
代表 松本市牧の原 104-416  
TEL 043-311-0886

茨城県常総市(旧水戸市)の

### 図書館 見学記

大石 民子

河津楼がやっと満開になったという3月の比較的暖かい日、見学会に参加した。見学者は3名。

関東鉄道水海道駅に降り立つと、駅前には閑散としており、開店休業のような店やシャツターが降りている店が多い。

そんな田舎町(失礼!)なのに、教えてもらった道を辿って行くと、目の前に薄色のレンガ造りの建物が現われ、「えっ、これがー!!」と、びっくり。満室のように大きくはないが、前庭も充分あるステキな建物。その隣には、大正時代

建造の旧市庁舎が目を引く。庁舎建て替えの時、現在地に移したそう。

館長・副館長はお留守だった

が 館長室で奉仕係主査兼管理係長の相沢さん(司書資格有)が「H.23年度図書館要覧」に基づいて説明して下さった。職員

は、他に管理係と奉仕係5名。H.18年に水海道市と石下町が合併して常総市になり、人口約6万5千人。2万700世帯。

この図書館は昭和57年に開館58年に「日本サインデザイン協会SDA賞を、60年に「第一回日本図書館協会建築賞」を受賞したとのこと。一目見ただけで「ワアー!!」と声が出たのも、

さにあらん。後にある駐車場も、広かった。

玄関から左側には一般図書で、書棚と書棚の間もゆったりしている。その右には和室があり、高枝ぼくらいの男子が3人と1人、使っていた。左の庭に面した所は青少年コーナーで、奥に個人用机が6机。そして、玄関右側は児童コーナーで、円型の開架室。角にたみのおはなしの部屋があり、赤ちゃん・青少年・年配者がワンフロアで閲覧できる素敵な場所だった。2階には、和室・集客室・視聴覚室等があり、子ども向けの映画会も毎月やっている。

頂いた「図書館要覧」の中で私の目を引いたのは、5年前から赤ちゃんへの「ブックスタート」をやっていること。12ヶ月検診時に5冊の絵本を読み聞かせ、1冊を選んでもらって配布しているとのこと。絵本を介して親子のふれあいの

普及を図る」という主旨は、子育ての支援をしている私には、とても羨ましいことでした。

赤ちゃんの時から早等に絵本に触れることができるといふのは、図書館発展の未来にもつながるのではないのでしょうか。



### 西山 怜子

2012年3月7日 常総市立図書館

見学に、青木さん・大石さん・私の3人で行きました。評価の高い図書館らしく、青木さんは前から見学したかった図書館だそうです。常盤線取手駅から関東鉄道に乗り換え、水海道駅で降りました。

人影の少ない古い街並を歩き、角を曲ったところ、立派な図書館が現れたのです。期せずして、私達は驚嘆の声を上げてしまいました。広い敷地の中に、明るく近代的な建物が堂々と建っていたのです。

昭和57年7月に開館され、数々

の賞を受賞している図書館です。内部に入り、主査の相沢俊江さんに案内していただきました。なんとという工法か、風情ある高い天井、明るい窓辺、広い壁には立派な絵が掛かっています。奥の方に、和室も配置されていました。

1階のフロアには一般開架室、児童開架室、新聞雑誌コーナー、青少年コーナー、事務作業室、参考図書室等、図書館機能を発揮できる配置がされています。勿論、コンピュータシステム等も導入されています。2階には、視聴覚室、教材室、対面朗読室、集会室、展示ギャラリー、和室などが配置されています。

この図書館は、2つの柱として「学びの学び」「出会いのあがる人生の広場」として図書館をとらえ、それが開館以来続いて

いるのでしょうか。時代が変わり、社会情勢が変化する中で、この図書館は地域の人々にとって宝であり、誇りではないでしょうか。また、図書館の建物が時代の変化に対応できる構造をもっているのでしょうか。更に、職員の方8名のうち、6名が司書資格者である。児童図書

の貸出冊数の多いことも突出しています。児童開架室のスペースの広さ、ブックスタート、読みかせ、おはなし会、小学校図書館一般開放事業等、色々な活動の成果が表れているのでしょうか。将来のある子どもたちには、良い影響を与えることでしょうか。

### 青木 和子

長年の念願が叶い、水海道の図書館を見学できたことを、大変嬉しく思います。

私が「図書館」に関わり始めた頃、素晴らしい図書館としてその名

と耳にしたのは、北海道の釧路図書館、千葉の浦安図書館、そして茨城の水海道図書館でした。以来、いつか是非とも見学したいと願っておりました。

設計は、水戸市の三上設計事務所です。この素晴らしい図書館は、三上清一さん（故人）、図書館計画施設研究所の菅原峻さん（故人）、初代館長の谷貝忍さんの出合いがあったからこそその成果ではないでしょうが、勿論、このような方々の人選をした水海道市の見識の高さには、敬意を表します。

しかし、H18年の石下町との合併により、図書館が市の端っこになってしまったのは残念なことです。見学で特に印象深かったことと。まず、駅からの道を行き、角を曲がって、初めて図書館を目にした時の驚き！

(3) 玄関へのアプローチは、教段の階段と緩い傾斜の歩道があり、歩

道の途中に駐輪場を設置。今置き場は、通常は入口横の壁の中に納められています。

館長室をどこにどう作るかが課題だった由。玄関を入ってすぐのカウンターの後、2階への上り口があり、壁はガラス張り。そのガラス窓に直接、明朝体で白く「館長室」と大書してあります。このサイン方法は、他の表示についても同様でした。利用者への心配りを第一に考えていることがそこに感じられて、温かさにあふれた図書館でした。

今回も、ルンルン気分と羨ましさの入り交じった複雑な思いで、帰途に就きました。

「憲法記念日の集い」感想

伊藤 和子

毎年5月3日の憲法記念日に著名な知識人をお招きして、講演会を開くようになって、何年位になるかな？と思いついて、日記を引っ張り出してみました。

私が参加したのは、2000年の「憲法と向き合う会」で、山本菊代さんが半生を語られた時からのようです。

今のように市内の多数の団体が共催するようになってからは、10年が過ぎました。



- ・ 03年 永六輔・辛淑玉
- ・ 04年 天木直人（前レバンソ大使）
- ・ 05年 佐高信
- ・ 06年 澤池久枝（松本ヒロミ出演）
- ・ 07年 早乙女勝元
- ・ 08年 神田香織（護国師）

- ・99年 金子勝
- ・10年 益川敏英(伊藤不参加)
- ・11年 大田昌秀
- ・12年 大江健三郎

このようなそうそうたるメンバーで、よくもまあ、これだけの方をお呼びできたと驚いてしまいました。実現させるまでのご苦労も並大抵ではなかつたでしょうに、ただただ感謝あるのみです。おかげで、近年この儘しも定着して来たように、今年など、あのトシヤ降りの雨の中でも、超満員でした。因みに、5月3日に、あのような大雨になったのは珍しいのではないかと思ひ、過去7年間の日記を調べてみたら、小雨が4回あり、トシヤ降りは今年だけでした。5月3日は、殆どが快晴に恵まれているということですよ。

普段、政治にあまり関心の無さそうな市民達が、あれだけ憲法の

話を聞きに来るといふことは、昨年の3月11日以来、モヤモヤとした判然としない空気を感じているからではないでしょうか？

憲法改悪をしようとする動きが原発問題につながっている不安を、直接被害に遭わなかつた松戸市民達でさえ、感じ、真実を知りたいという欲求が強くなってきたのではないかと？

フクシマの惨事は、ヒロシマナカサキで起きた事と、本質的には同じだと思ふのです。千エルノアイリ事故も、勿論！(原子核が暴発したという意味で)全く想定外の千年に一度の大津波だったと言いますが、だから今度来るのは千年先、とは限らないでしょうか？近い将来、50

基以上もある原発のどれかが暴発しないという確約はできません。要するに、人間の力で原子力を完全制御するのは不可能だと、

諦めるべきです。特に、日本のような、プレートとプレートが重なっているような地震大国に於いておや！

今度大地震が起きたら、日本は沈没してしまいます！小松左京さんの予言の如く！

この危なっかしい国土に住んでいる以上、私達は、もつと原発問題を知るべきです。

今、この時に、大江健三郎さんのお話を聞けたことは、大変幸せでした。80歳を迎えようとする大江さんの、全国行脚をせずにはいられない情熱の一端に触れることのできた、貴重な一日でした。

